

科学研究費補助金
獣医学教育の抜本的改善の方向と方法に関する研究

帯広畜産大学

代 表 者：白幡敏一（平成 11 年度）
山田純三（平成 12 年度）

研究課題：東連大参加校の教育改善の具体策
帯広畜産大学の対応

帯広大学獣医学科の獣医学教育改善への取り組みの総括

文部省は、獣医学教育の 6 年制移行に際し、国立大学で獣医学教育を受ける学生数に対して、教官数が少ないことから、再編を前提として不足数を純増した。即ち、数校に獣医学科・学部が再編すれば、必要な教育組織を構成できる程の教官を増員したことになる。しかし、獣医学関係者の努力不足と 6 全総に阻まれて、6 年制教育は発足したものの獣医学科間の再編は凍結され、4 年制教育当時の組織のまま 6 年制獣医学教育の継続を余儀なくされている。帯広畜産大学獣医学科は教官組織の不足を補うため、卒業論文単位および演習科目の増加に加え、授業時間数を A 単位に変更するなどにより履修内容を糊塗しつつ、教育の充実を模索した。一方で、大学院修士課程の廃止に伴う予算の目減りを補うために「緊急避難処置」として設置された、岐阜大学大学院連合獣医学研究科に参画した。この大学院教育及び出張を伴う会議等の負担もまた、弱小な教育組織にとって決して軽いものではない。獣医学教育の当事者として、教育内容の貧弱さを痛感している。学内組織の活用、即ち自助努力も試みたが、学内においての理解が得られず、組織の充実も図れないまま現在を迎えている。

凡そ 5 年前、岐阜大学大学院連合獣医学研究科を構成する他大学の獣医学科においても同様の悩みを抱えていることが明らかとなり、平成 7 年秋から岐阜連大構成 4 大学獣医学科の学科長等が獣医学教育研究の充実について検討を行った。平成 8 年の早春には、弱小地

方大学の獣医学教育研究組織の抜本的な改革・充実が獣医学科間の再編以外に途はないとの結論に達した。既存の大学に集結することは、一見合理的であるが、大学間の綱引きから軋轢が生じて成功しないことは明らかである。そこで、以前に行われて実現しなかった再編の反省から、獣医学教育の実施されていない重点化可能な大学に獣医学部を新設する途を選び、第一選択肢として東北大学を目標とした。文部省高等教育局専門教育課の担当官から、「文部省は獣医学再編の旗を下ろしていない。各大学、地域の理解を得ることが必要。」との言を抛り所に再編への努力を始めた。東 4 大学は各学科の代表者と、学科長から構成される懇談会を結成し、懇談会のメンバーがそれぞれの大学の農学部長、あるいは学長と会見を持ち、獣医学再編について理解を求めた。しかし、いずれの大学も理解が得られないまま時間が経過した。

本学では、久保学長の意向から正式な委員会に取り上げられることはなかったが、懇談会の代表と学科長が非公式に他学科を訪問し、説明に回った。しかしながら他学科の構成員の理解を得ることは困難であった。同窓会及び地域の獣医師会とも再編についての説明を行う機会を持ったが、やはり十分な理解を得ることは出来なかった。さらに、学内の理解を得るための試みとして、平成 11 年 12 月 2 日には、東大副学長小林正彦教授及び全国獣医学関係大学代表者協議会会長唐木英明教授の学術講演会を持った。一方、獣医学科の助講会のメンバーは、平成 9 年 6 月に東 4 大学懇談会が作成した「獣医学教育・研究に関する理想像」をより具体化した「獣医学教育への提案」を作成した（参考資料）。しかし、我々の努力ではなお不十分であったためか、再編による獣医学教育の充実について学内での理解が得られないまま、本年 3 月、佐々木新学長を迎えることとなった。

新学長は大学の独立法人化、あるいは大学改革、特に獣医学教育の充実について積極的に対応された。平成 12 年 8 月に「獣医学教育の充実は自助努力で行う」という学長表明がなされ、現在、その路線で学内改革が進められている。具体的には「獣医学教育は平成 14 年度に他学科から教授、助教授合計 4 名程度を獣医学科に移籍し、臨床教育の充実を図る」という本学の規模からすれば、破格の提案が 12 月 22 日になされた。本学は単科大学であり獣医学教育の存否が大学の存亡に直結するという認識からと推測されるが、学長はじめ他学科の諸先生のご配慮には敬意と謝意を表するしだいである。しかし、現在充実が急務とされる臨床獣医学教育及び獣医公衆衛生学教育のうち、後者の充実は一顧だにされておらず、複数の国家試験科目については相変わらず担当講座が欠けたままの状況にある。僅かに、臨床教育の補足が望まれるだけで、6 年制獣医学教育全体の充実という視点からは程遠く、あまりにも不十分である。即ち、獣医学科間の再編により充実されるはずの教員組織あるいは平成 9 年に改定された大学基準協会の獣医学教育基準との乖離は大きい。本学では獣医学教育自体あるいは獣医学教育の充実について全学的な検討は行われておらず、獣医学教育について十分な理解がないまま、改革・充実案が提案されたためであろう。獣医学科助講会メンバーも本学の改革充実案について同じ趣旨の意見を「これからの本学における獣医学教育の方向について」および「学長の意見表明に関して獣医学科若手教官の

見解」として学内に表明している。

獣医学 6 年制教育に必要な教員数の充実はいくまでも獣医学科間の再編を行う以外には不可能であり、獣医学科間再編の実現を目指したが、「大学の自治」の名のもとに、このような貧弱な充実で終わるとすれば、獣医学教育改善は不可能であり、遠からず本学の獣医学教育が事実上消滅することも予想される。

大学の構成員として、獣医学科は大学の決定には従わざるを得ない。しかしなお、獣医学科は国公立大学獣医学協議会及び全国大学獣医学関係代表者協議会の決議を遵守し、他大学の再編の実現を支援し、さらに獣医学再編に参画し、産業動物臨床獣医学教育・研究のセンターが立地条件に恵まれた本学に設置されることを希求している。

関連学術講演会

農学・獣医学教育の課題と展望

日時 平成 11 年 12 月 2 日 14 : 45 ~ 17 : 00

1 . 大学の独立法人化と農学の将来

東京大学副学長 小林正彦教授

2 . 日本の獣医学教育の現状と将来

全国獣医学関係大学代表者協議会会長

東大農学部 唐木英明教授

主催 帯広畜産大学の将来を考える懇談会

後援 文部省科学研究費研究班

東 4 大学懇談会議事録

本議事録は東 4 大学の懇談会のものであり、科研の班の会議議事録は割愛した。また、平成 12 年本懇談会を凍結状態にすることが決まった後の動きについても割愛している。

第 15 回 東 4 大学懇談会

日 時：平成 11 年 6 月 6 日（日）13 : 30 - 15 : 30

場 所：芝弥生会館

出席者：品川、白幡、斉藤、宮沢（帯広大）、内藤、松坂、三宅（岩手大）

田谷、本多、山根、神田（農工大）、平井、源、小森、佐々木（岐阜大）

協議事項

1. 新学部 of 構想、カリキュラム等について

○ 東 4 大学獣医学科が一学部 to 集結したとき of カリキュラム案（原案）について本多教授から説明があった。

○ 学部 of 入学生は 3 年次編入を主体とすること、教官組織 of パーマネント of ポジションを減らし時限 of 席を増やすこと、コース制などについて議論された。

2. 各大学 of 状況報告、今後 of 予定等について

○ 各大学 of 状況について以下 of 説明があった。

帯広大：原虫病センター of 全国共同利用へ of 動きに関連しするため、今は獣医学科 of 問題については話し合わない（学長）

岩手大：以前からあった獣医学部構想 of 凍結し、新たに学部創設委員会を設置することになる（学部へ of 説明が可能になる）

農工大：学部長に提出した「獣医学教育充実案」について of 説明があった。

岐阜大：獣医学教育問題について学部、大学レベルで検討が始り、当面 of 教育改善について取り扱う。

3. まとめ

再編に向けて各大学は学部説得 of 努力をさらに行う。

懇談会を密に持つ。

学科がより緊密に纏まることが重要である。

学内外に理解を求めるために、講演会などを開催する。

第 16 回 東 4 大学懇談会

日時：平成 11 年 7 月 19 日（月）15：00～17：00

場所：帯広畜産大学・本部棟中会議室

出席者：品川、白幡、山田（明）、山田（純）、佐藤（邦）、宮原、佐藤（基）、石黒、小俣、石川（帯広大）、内藤、松阪、三宅（岩手大）、山根、本多（農工大）、平井、小森、佐々木（岐阜大）

協議事項等

1. 各大学 of 報告

○ 各大学 of 教授会へ of 具体的な対応

帯広大：何ら進展なし。学長 of 意志表明は 8 月から 12 月以降に延期。十勝 of 獣医師

会でシンポジウムを開催し、学科長、十勝家保所長、北獣会会長、同窓会副会長がパネリストとして参加した。獣医学科が帯広を離れることは反対だが、獣医学教育充実の必要性についてより理解された。

岩手大：特に動きは無い。学部創設委員会で再編について話が出来ようになり、委員長の内藤教授が召集する予定。他に、概算要求で文部省より学部創設についての獣医学科の対応を問われたが、内容は不明。

農工大：特に動きなし。獣医学科の自助努力の構想を5月中に提出したが対応はない。単独での充実の可能性について、これから農学連合の統合の問題の状況を見ながら進める。獣医学科が中心となり、「農学の行く先」でフォーラムを企画している。

岐阜大：農学部の基本問題委員会で獣医学の問題を検討している。現在、岐阜大単独で獣医学教育充実の可能性を検討しており、基本問題委員会に基準協会の基準を基とした新カリキュラムを説明した。現教官で新カリキュラムがどの程度実施出来るか検討することとなった。「農学学部長懇談会に於て、獣医学問題が学部長会議で話題として上っているが、農学部問題の中の一つとしてとらえる。岐阜大では農学部で検討してダメなら大学全体として獣医学教育ができないか検討し、それでダメなら次のステップをと考えている」(農学部長談)。「研究指向の大学に何故集まるのか?、獣医学教育の実務教育の問題ではないのか?、獣医学教育を教えるのであれば医学部との関係もあるのではないのか、地道な進め方をすることと正式なルートを通してこなれば取り合えない事、日常(現状)の教育改善について検討すべきではないか」(学長談)

2. 再編関係資料の整理について検討

前回、内藤教授提案の、再編関係資料を纏めて利用しやすくすることに関して、合意が得られ、内藤教授を中心として行う。費用は各大学負担、後は品川教授と内藤教授が詳細を詰めることとなった。

3. 7月8日の唐木班会議の報告と今後の対応

別紙使用により説明(品川教授)

基準協会の実施する獣医学の横断的外部評価実施について、各大学の了解を得る際、各大学学長の基準協会および全国獣医学関係大学代表者協議会に対する位置づけが問題であり、了解あう困難さが話された。

○唐木班の5班の資料は、本懇談会のまとめを使用し、1~4班の作業はここで整理された資料を活用することとなった。

4. 新学部のカリキュラム、組織等の検討状況の報告

資料に基づき本多教授から説明があった。

総論の後に臓器別各論の実施、4年次に病理実習を始め5年からポリクリを実施、3年次には倫理、communication 学の導入等が特徴。シラバスは現在検討中。

論文コース・臨床コース分離、卒論の実施有無、語学教育、新学部構想におけるセン

ターの問題、学生定員等について若干討議されたが現段階では大まかな構想であり、これらについては今後詳細な検討を持って決定されることが強調された。

5. その他

○当面の教育改善について

1) 大学間相互協力に関する各大学の進行状況

各大学の協力の一つとして出張の折りはその機会を有効利用して講義する事が現実に行われていることが報告された。帯広大では、臨床教育に臨床獣医師の非常勤講師（予算措置なし）としての活用事例が報告された。

2) その他

岩手から、「教授会で獣医学部問題は棚上げと成っているが、四大学懇談会の討議事項と教授会への対応を如何にしたらいいか？」と問い掛けられたが、各大学の事情が違うので、教授会説得、学部説得は各大学に任せるという意見が出た。

第 17 回 東 4 大学懇談会（拡大第 5 班班会議を兼ねる）

日時：平成 11 年 10 月 12 日（火）15：00～17：00

場所：熊本市市民会館 2 階第 2 会議室、

出席者：品川、白幡、山田（純）、佐藤（基）、宮沢（帯広大）、内藤、松坂（岩手大）、山根、本多、田谷、神田、金子、町田（農工大）、平井、小森、源（岐阜大）

協議事項

東 4 大学のその後の進展と今後の対策

午前・午後に行われた国公立、全国の協議会の内容のうち、国公立協議会の東西各 4 大学の再編についてのスケジュールが、平成 13 年度概算とし、間に合わないところは第 2 陣とするとする件について話し合われた。また唐木先生から「東は 4 校での再編ばかり考えていないでその他の方策を考えることも必要な時期に至っているのではないか」との唐木提案についても話された。

帯広畜産大学以外は、遅くとも来年 2～3 月までには大学の獣医再編に対する正式な結論を得るのは困難かもしれないが、見通しをつけることが可能と報告された。唐木提案についても話題となったが、当面検討せず、東 4 大学で再編を行うことで合意された。先行できる大学はどんどん進めることが認められた。

第 18 回 四大学懇談会（第 5 班班会議を兼ねる）

日時：平成 11 年 10 月 14 日（木）15：30～16：30

場所：サンルート熊本4階喫茶室

出席者：品川（帯広大）、内藤（岩手大）、山根義久（農工大）、平井克哉（岐阜大）

協議事項

1. 唐木提案について

提案を検討した結果、現在、再編が進まない理由は、四大学での再編であるから困難とか、1～2大学ずつ既存の旧制帝大と再編すれば良いとかではない。各大学の学部が「獣医学科が大学を出て他大学獣医学科と再編すること」の承認を得ることの困難さにあると確認し、唐木提案については、これ以上検討しなかった。

2. 来年7月に文部省から独立行政法人化についての方針が提出された以後についてどうなるか全く不透明で、現在予想することが出来ないため、これにとらわれず、肅々と4大学の再編に向けて学内の了解を得る努力することが確認された。

第19回 東4大学懇談会

日時：平成12年1月24日（月）17：30～18：50

場所：東京弥生会館、

出席者：品川（帯広大）、内藤（岩手大）、山根、本多、神田（農工大）、平井（岐阜大）

協議事項

1. 各大学の現状報告

帯広大：1) 次期学科長は山田純三教授

2) 学長から、独立行政法人化と共に獣医学科再編問題を学内の正式委員会で検討

3) 次期学長に、東北大学農学部長佐々木名誉教授に決定した。学長選での意志表示は「獣医学科は帯広畜産大学から離さない」であった。

岩手大：獣医学部創設委員会の結論として、「獣医学科が大学から離れて再編をすることを決定」と教授会に説明したが、異論が百出し、教授会で検討するに至ず。学部長は同委員会の解散を決定した。受け皿になる委員会の検討中である。

農工大：全く進展なし。将来構想委員会に提出した自助努力案が店晒状態。1月28日に、東大副学長小林教授及び山口大学徳力教授を呼んでフォーラムを行う。

岐阜大：自助努力案について2回程程度の頻度で検討進めている。他学科は27名の教官を獣医学科に移籍する必要性から、獣医学科を学部内に留めることを諦めかけている。12月に東大副学長小林教授及び東大唐木教授の講演会を開催した。

○山根教授から、東大の臨床教官充実の概算要求について情報が紹介され、もし概算が通れば、教官は全国の新制大学、私立大学から一本釣りで賄うことになるから、新制大学は

有能教官が引き抜かれて益々ガタガタになるであろうとの見通しも紹介された。

第 20 回 東 4 大学懇談会

日時：平成 12 年 3 月 29 日（水）13：00～17：00

場所：芝弥生会館

出席者：品川、山田（純）（帯広大）、内藤、松阪（岩手大）、山根、本多、金子（農工大）、平井、小森、源、佐々木（岐阜大）、徳力（国公立協議会長）

1．西四大学の再編進捗状況

冒頭に徳力会長から山口大学農学部長が複数の大学に「山口大学農学部では 2 校での交渉は認めていない」との電話をした件及び西の進捗状況について、説明があった。

2．四大学の現状報告

岐阜大：自助努力案に対して、岐阜で獣医学教育は出来ないと決議がとれなかった。

農工大：提出した自助努力案に対する学部長の返答を要望した。

将来検討委員会は自助努力案を農工で実施することは出来ないと結論した。

岩手大：農学部長提案により獣医学部創設準備委員会は本年度限りで将来計画委員会（仮称）に統合する。教授会対策の見込みが甘かったと報告された。

帯広大：学長が替わり、21 世紀の帯広畜産大学の在り方を検討する委員会が設置予定ここで、獣医学問題や独立行政法人化等の検討が行われる予定で委員を今月中に選出する。

協議の中で、再編が進まないために再び出口論がでた。しかし、再編が進まないのは、出口の問題ではなく、各大学の学部を説得の成否の問題。この点を再度認識して各学部の説得が必要。

3．東 4 大学懇談会に東大、北大が参加することに関して

東大・北大の再編検討への参加は、先ず、東 4 大学懇談会に参加してもらい意見交換を行うこととしたい。懇談会を協議会の行われる 4 月 3 日の、行事が終わった後に行うこととした。

第 21 回 東 4 大学懇談会

日時：平成 12 年 4 月 3 日

場所：東大農学部 7 号館会議室

出席者：品川、山田(純)、白幡、山田(明)、宮澤(帯広大)、内藤、松阪(岩手大)、山根、本多、金子(農工大)、平井、小森、源、佐々木(岐阜大)、藤田、藤永、喜田、小沼、乗原、斉藤(北大)、吉川、小野、佐々木、土井(東大)、唐木(全国獣医学関係大学代表者協議会)

今回は東大、北大ならびに全国獣医学関係大学代表者協議会から唐木会長がオブザーバーとして参加し、意見交換を行った。

意見交換の結果、以下のことが確認された。

1. 東北大案はそのままとする。
2. 東4大学懇談会に東大、北大が参加し、再編についての勉強会(懇談会)を行う。
3. 毎月1回程度開催する。経費は科研費を当てても良い。

資料として東大から、検討中であるとの断りが付いて「東京大学獣医学専修カリキュラム案」が提示された。

北大、東大ならびに唐木会長退席後に以下のことが確認された。

1. 東大、北大が東4大学の懇談会に参加することを各大学で了解すること。
2. 次回東4大学+東大、北大懇談会を5月末に開催する。
3. 文部省に対し要望書を送る。4月20日頃までに品川代表が作成する。

第22回 東4大学懇談会

日時：平成12年5月26日(金) 14:00～17:00

場所：東京大学農学部7号館405号室

出席者：品川、山田(帯広大)、内藤、谷口(岩手大)、山根、本多、金子(農工大)、小森、工藤、北川(岐阜大)

協議事項

獣医学再編(東北大学との対応)

品川代表より東北大学と接触した結果、「東北大学農学部内に2ないし3獣医学科を学科として受け入れる可能性があれば、農学部には獣医学問題を検討する委員会を正式発足させる。四大学獣医学科が揃っての場合は大きすぎて学科では困難。」との見通しである旨説明があった。協議の結果、当面東4大学の獣医学科が統合再編して東北大学に獣医学部設立を目指して努力する。ただし、学科についての検討も必要があるとの意見が出たため、東北大学が農学部には学科として受け入れる場合の対応を各大学の獣医学科に持ち帰って検討することとした。

第 23 回 東 4 大学懇談会議事録

日時：平成 12 年 9 月 9 日 13:30～16:30

場所：東京 弥生会館

出席者：品川，山田，西村（帯広大） 内藤，三宅，谷口，津田，森松（岩手大学） 金子，本多，林谷（農工大） 小森，平井，工藤，北川，鈴木，柵木，外崎，山口，村瀬，山本，杉山，福士，鬼頭（岐阜大）

協議事項

1．次回の懇談会までに検討することとなっていた「四大学の構成大学獣医学科は東北大学に獣医学教育組織を置く場合、農学部獣医学科でも可とするか否か」について

帯広：学部を選択する。

岩手：学部あるいは学科については議論していない。基準協会案を最低とすることには合意されているが、学部または学科についてはつめていない。

農工：学部であること。

岐阜：基準協会の基準を満たすこと。

2．獣医学教育充実の方針に関する各大学の学部・大学の方針

帯広大：「自助努力により獣医学教育を充実する」と学長の意志表明

一方、学長は、「大学としては再編に対してコメントしない。東北大学案をキャンセルしない。獣医学再編のルートは継続して繋いでおいてほしい」ともコメント。

岩手大：未だ学部・大学から正式な返事なし。

農工大：未だ学部・大学から正式な返事なし。

○将来問題検討委員会で他大学に獣医学部をつくる、農工大に獣医学部を作る等の可能性を含めて検討する。

岐阜大：未だ学部・大学から正式な返事なし。

○自助努力案を学部で 1 年間検討したが受け入れられず。

学部内で、1 選択肢として、全国的な再編整備の動きの中で対応することもやむなしの雰囲気。

3．帯広大が自助努力を表明したことに関連した各学科の意向

帯広大：学科はなお、他大学と学部にも再編することを希望

岩手大：他大学との再編を断念せず、岐阜大と農工大の連携で推進

農工大：獣医学部の設立を希望

東北大学がダメなら他の大学院大学を受け皿として考慮

岐阜大：基準協会の基準以上を目指す

学科，学部には必ずしもこだわらず

4．帯広大が自助努力を表明したことに伴う東 4 大学懇談会の今後について

- 四大学の枠組みは残すが、各大学の活動に縛りをかけない。
 - 開店休業状態とするが、必要に応じて開催することとする。
- 以上の2点が了承された。

獣医学教育改善に関する緊急会議議事録

日時：2000年6月26日午前9時30分-12時

場所：東京大学農学部

呼びかけ人：全国大学獣医学関係代表者協議会会長 唐木英明

出席者：国公立大学獣医学協議会会長 兼 西連大代表者 徳力幹彦

東4大学懇談会代表者 品川森一

東大、北大グループ代表者 土井邦雄

平成13年度概算を目指して努力を続けてきた獣医学教育改善運動であるが、すでに実質的には概算要求のタイムリミットを過ぎてしまった。今後の運動方針を早急に再構築することが求められるので、関係者に呼びかけて緊急に会議を行った。その結果、以下の点が確認された。

- 1) 西4大学と九大との非公式な話し合いが6月29日に開催されるが、東4大学、東大、北大は大きな動きがなく、平成13年度概算は各大学ともにほぼ不可能な状況である。
- 2) 獣医学教育の改善のために全大学は平成14年度概算を目指して引き続き努力する。
- 3) 具体的な運動方針はこれまでのものを引き継ぐ。
- 4) 今後、情勢の変更があった場合には早急に会合を開き、新たな方針を協議する。

なお、農学部長会議などにおいて、「全国獣医学関係大学代表者協議会」の名称について不快感が表明され、教育改善の論議に水を指すような事態が起こっています。私達が「大学代表者」として活動しているのではないことは「規約」にも明記されていますし、これまでも関係者にご説明に務めているところです。しかし、このような瑣末な事柄のために、本筋である教育改革の進行が少しでも遅延することは、私達の本意ではありません。そこで、三十数年の歴史を誇る本協議会の名称を「全国大学獣医学関係代表者協議会」に変更することを提案することにしましたので、あわせてご報告します。

会計報告

平成11年度

収入

交付金額	700,000 円
預金利息	12 円
合計	700,012 円
支出	
旅費	
7月	8～9日 (東京・品川) 77,240 円 (班責任者会議・東大)
8月	30～31日 (東京・品川) 77,240 円 (班会議・東大)
2月	3～5日 (東京・品川) 92,940 円 (班会議・東大)
2月	15～16日 (仙台・品川) 71,820 円 (研究打合・東北大)
2月	18～20日 (東京・山田(明)) 92,940 円 (資料収集および研究打合・東大)
2月	25～27日 (東京・宮澤) 92,940 円 (資料収集および研究打合・東大)
3月	3～5日 (東京・白幡) 92,940 円 (資料収集および研究打合・東大)
3月	3～5日 (東京・山田(純)) 92,940 円 (資料収集および研究打合・東大)
小計	691,000 円
消耗品	
ファイル他	9,012 円
合計	700,012 円
平成 12 年度	
収入	
交付金額	400,000 円
預金利息	17 円
合計	400,017 円
支出	
旅費	
6月	25～27日 (東京・品川) 91,840 円 (研究打合・東大)
7月	16～18日 (札幌・斎藤) 45,440 円 (全国獣医学関係大学代表者協議会 横断の評価委員会)
8月	18～19日 (東京・山田(純)) 90,240 円 (班会議・東大)
9月	9～10日 (東京・山田(純)) 69,440 円 (研究打合・東大)
12月	16～17日 (東京・山田(純)) 76,140 円 (研究打合・東大)
小計	373,100 円
消耗品	
ファイル他	26,917 円 (事務用品)

合計	400,017 円
----	-----------